

CHIBA BANK 2009

ミニ・ディスクロージャー誌

平成21年3月期 営業のご報告

1st

1st

お客さま第一主義+地域のトップバンク

目次

頭取インタビュー.....	2
中期経営計画 「1st 1st」(ダブルファースト).....	5
トピックス、地域貢献活動.....	6
地域のみなさまとともに	7
平成21年3月期 業績のご報告	
財務諸表(連結).....	9
財務諸表(単体).....	11
株式の状況.....	13
ちばぎんネットワーク.....	14

当行は、千葉県に根差した金融機関として、さまざまな地域貢献活動を実施しています。

「たいせつにします、 ひと、みず、みどり。」

「ひと」=福祉・教育活動、「みず」=水質保全活動、
「みどり」=緑化活動の3分野に重点を置いて
取組んでまいります。

❶ 福祉・教育活動

障害者自立支援法の施行、少子高齢化の進展などを背景として、今後ますます重要性が高まる障がい者・高齢者福祉関連、教育関連の貢献活動に積極的に取組んでまいります。

❷ 水質保全活動

印旛沼、九十九里浜など、千葉県を取り巻く水資源の保全に取組んでまいります。

❸ 緑化活動

「ちばぎんの森」における育樹活動などに継続して取組んでまいります。

千葉銀行のプロフィール 平成21年3月31日現在

設立 昭和18年3月

拠点 国内172店舗
(本文店151、特別出張所5、出張所14、仮想店舗2)

店舗外現金自動設備28,582か所
(うちコンビニATM「E-net」9,454か所、
セブン銀行との提携による共同ATM12,814か所、
ローソンとの提携によるATM6,053か所)

両替出張所3か所

海外：3店舗(ニューヨーク、香港、ロンドン)
1駐在員事務所(上海)

従業員数 4,081人

総資産 9兆9,968億円

預金 8兆5,293億円

貸出金 6兆9,913億円

資本金 1,450億円

発行済株式数 895,521千株

自己資本比率 単体11.12% 連結11.70%

※諸計数は原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。

佐久間新頭取に聞く

お客さまに最も身近で、信頼される千葉銀行



津島 亜由子さん(インタビュー)

取締役頭取 佐久間 英利

新頭取として

津島 私は社会人になるまで千葉県に約20年住んでいましたので、地元の銀行とさえいっても“ちばぎん”でした。その千葉銀行の頭取に本年3月に就任されてから、毎日忙しい日々が続いているかと思いますが、頭取ご自身のこれまでの経歴や心掛けていることなどについてお聞かせいただけますか。

佐久間 私は、木更津の農家出身で、子供の頃は鶏の世話や野菜の収穫など家の手伝いをしていました。そこで一人では大変な作業でも、みんなでやればできるという協同作業の大切さを学びました。それ以来私の座右の銘は「和を以て貴しとなす。」で、頭取に就任しても変わっていません。職員が、役職等に関係なく誰でも自由に自分の意見が言える風通しの良い組織を実現し、皆で力を合わせ高めていくことにより、お客さまに最も身近で信頼される銀行にしていきたいと考えています。

また、私は、入行してから営業、マーケット、企画など幅広い業務を担当してきましたが、常に仕事から「逃げない」「諦めない」ということを心掛けてきました。厳しい経済環境下ではありますが、頭取である自分自身が率先して、当行及び地域経済発展のために全力を尽くしていきたいと考えています。

平成21年3月期決算について

津島 私が出演しているニュース番組でも最近の厳しい経済環境についてはよく取り上げています。今後の景気の見通しや千葉県についてはどのように認識されていますか。

佐久間 米国の金融機関の破綻等を背景とした100年に1度と言われる世界的な金融危機は、わが国経済にも甚大な影響を与え、景気の回復には相当の時間を要するものと考えています。もちろん当行が主要な地盤とする千葉県も例外ではありませんが、県北西部を中心に人口が増加していること、つくばエクスプレス沿線の開発や成田新高速鉄道の開通など大規模なプロジェクトが進行中であることなど他の地域にはない明るい話題も多く、今後とも大いに期待できるマーケットと考えています。

津島 そのような環境のもと、平成21年3月期の決算はいかがでしたか。

佐久間 当行は、預金や貸出金が順調に増加したことから、銀行の基礎的な利益を示すコア業務純益は、前期比58億円増加し過去最高の907億円となりました。しかしながら、外国債券及び株式等の減損処理や、景気後退に伴う信用コストが増加したことなどにより、経常利益は前期比



取締役頭取 佐久間 英利

昭和51年当行入行。市場営業部長、経営企画部長を歴任し、平成15年6月取締役就任。取締役経営企画部長、取締役常務執行役員を経て平成21年3月取締役頭取に就任。

634億円減少し65億円、当期純利益は前期比333億円減少し113億円と減益となりました。一方、各種経営指標については、連結自己資本比率は11.70%、連結Tier I比率は10.17%、OHRは47.07%と引続き高い健全性と効率性を維持しております。なお、配当金につきましては、前年度と同額の年11円配当とするとともに、株主の皆さまに千葉県の名産品をお届けする株主優待制度を継続しています。

新中期経営計画

「1st 1st」(ダブルファースト)について

津島 平成21年4月からスタートした新中期経営計画「1st 1st」には、どのような思いが込められているのですか。

佐久間 この「1st 1st」(ダブルファースト)という名称には、「計画のゴールである2011年に向けて、お客さま第一主義を徹底し、地域のトップバンクの地位を確固たるものにする。あわせて、わが国の地方銀行において、営業面・内部管理面いずれにおいてもトップバンクを目指していく。」という意味を込めています。また、本中期経営計画では、地域への円滑な資金供給や預金の安定的な取込みなど金融仲介機能の強化やお取引先の経営改善支援などお客さまとの関係を今まで以上に強化して、地域密着型金融を実践することで、地域のお客さまとともにこの難局を乗り越えていきたいと

考えています。また、既存のお客さまとの取引を深めるとともに、新たなお客さまとの取引も開拓し、地域における「ちばぎんブランド」を今まで以上に浸透させていきたいと考えています。

営業戦略について

津島 頭取は、地域のお客さまに対し、円滑な資金供給をはじめとする積極的なサポートを進めていきたいとお話しされていますが、具体的な取組みを教えてください。

佐久間 中小企業のお客さまとの取引にとって、一番大切なことはお客さまとのコミュニケーションではないかと考えています。コミュニケーションをつうじ、お客さまの経営実態や特性、ニーズを把握し、的確なサポートを実現したいと考えています。特に、このような厳しい時代だからこそ、お客さまの資金ニーズには積極的にお応えしていきたいと考えています。

なお、現状、厳しい経営環境におかれている地域の中小企業のお客さまに対し、経営改善支援や事業再生支援など専門的なサポートを行う「企業サポート部」を本年6月に設置しました。今まで以上に実効性のある支援を実施していければと考えています。このような中小企業のお客さまを元気にする活動が、地域に少しずつ広がり、地域経済の活性化に貢献できたらと考えています。

津島 個人向けビジネスでは、どのような取組みを進めていくのですか。

佐久間 当行が営業基盤とする千葉県及びその隣接地域には、約1千万人の方が住んでいます。当該地域は、千葉県との結びつきも強く「広域千葉圏」として、預金や投資信託、さらには住宅ローンやクレジットカードなど、幅広い金融サービスを提供し、新たなお客さまとの取引を開拓していきたいと考えています。また、お客さまに最も身近で信頼されるメインバンクとなれるよう窓口の相談対応力の向上を目指していきます。

強靱な経営態勢の構築と 人材育成の強化について

津島 中期経営計画では、営業面のみならず「強靱な経営態勢の構築」と「人材育成の強化」を主要課題として掲げておられますが、どのような取り組みを進めていくのですか。

佐久間 強靱な経営態勢の構築では、リスク管理やコンプライアンス等の態勢の強化、さらには業務の効率化を進めていきたいと考えています。特に、リスク管理については、金利、為替、株式などの市場環境の変化に迅速に対応し、リスク管理能力を高めていくことが重要と考え「リスク管理部」を本年6月に設置しました。

津島 人材の育成にはどのように取り組んでいくのですか。

佐久間 銀行にとって最大の資産は人であり、「個々の力」と「組織の和」を高めることで、当行の持続的な成長が実現できるものと考えています。特に、全職員約4千人のうち4分の1にあたる約千人を入行4年目までの若手職員が占めており、人を「育てる」ことが重要と考えています。研修や職場でのOJTの充実により、人材育成を強化していきます。あわせて、職員のライフスタイルが多様化するなか、女性が幅広く活躍できるような制度の充実や、中高年の持つ専門的なスキルやノウハウの活用など、職員一人一人の力を最大限引き出し、当行全体の力を高めていきたいと考えています。

千葉銀行の目指すもの

津島 千葉銀行は、地域のトップバンクの地位を確固たるものにするため、どのような活動を進めていくのですか。

佐久間 最も重要なことは、お客さま第一主義を徹底することです。そのために、常にお客さまの声に謙虚に耳を傾け、お客さまの視点で考え、お客さまのために行動することを基本にしていきます。また、当行には、永い年月をかけてお客さまと



津島 亜由子さん

千葉県出身、1975年12月10日生まれ。
「サンデーモーニング」や「賢者の選択」など報道番組や情報番組で活躍。

築いてきた絆があります。その絆をさらに深めていくとともに、新しいお客さまにもこの絆に加わっていただきしっかりと地域に根付いた千葉銀行にしていきたいと考えています。

津島 頭取のお話を伺い、千葉銀行がお客さま、地域をどれだけ大切にしているか、強く感じました。お客さまと千葉銀行が築いた信頼関係が今まで以上に深くなり、地域のトップバンクとして、さらにはわが国の地方銀行のリーダーとして、成長を続けていくことを期待しています。

佐久間 私は、当行の成長と地域経済の発展に向け全力を尽くしていきます。そのためにも、お客さまとの対話をより充実させるなど、お客さまとの信頼関係を大切にしていきたいと思っています。また、芸術・スポーツ分野や環境問題等も含め、広い意味での「地域」の未来をお客さまとともに育みたい、という思いから、新しく「ちばぎん未来を育む宣言」をスローガンに掲げていこうと考えています。これからも当行がお客さまから信頼をいただくためには、先進的な金融商品・サービスの提供はもちろん、財務の健全性を維持し、内部管理態勢の充実を進めていかなければなりません。そのためにも、役職員が一丸となって、地域のトップバンクに相応しい銀行となるよう努力を続けていきます。

本日はありがとうございました。

ダブルファースト
中期経営計画 「1st 1st」

(2009年4月～2011年3月)

計画のゴールである2011年に向け、お客さま第一主義を徹底し、地域のトップバンクの地位を確固たるものにしてまいります。

**地域の総合金融サービスグループとして、
着実に成長してまいります。**

主要課題Ⅰ

金融仲介機能の強化と質の高い金融サービスの提供

- 地域への円滑な資金供給、預金の安定的な取込み、お客さまに最適な金融商品・サービスを提供すること等により、お客さまの裾野を拡大し、地域におけるシェアアップを図ります。
- 成長の見込まれる地域や収益性の高い業務に対し、経営資源を効果的に配分します。

主要課題Ⅱ

強靱な経営態勢の構築

- 業務プロセスの見直しによる業務の合理化・効率化を図るとともに、経費削減を進めます。
- コンプライアンスを全ての業務の基本に置くとともに、リスク管理態勢を強化します。

主要課題Ⅲ

人材育成の強化

- 職員各層の人材教育の更なる充実などにより、人材のレベルアップを図ります。

主要課題への取組にあたっては、常にお客さまの声に謙虚に耳を傾け、お客さまの視点で考え、お客さまのために行動してまいります。

トピックス

店舗の新設

平成21年3月、JR常磐線北千住駅近くの「北千住法人営業所」は、「千住支店」として支店に昇格しました。

また、平成20年7月に鎌取支店内に開設した「ちはら台支店」は、平成21年3月の新店舗完成に伴い、市原市ちはら台へ移転しました。

ちはら台支店では、地球温暖化等の環境問題に配慮し、当行店舗では初の太陽光発電システムを設置しました。また、バリアフリー店舗としてお子さま連れのお客さまやお身体の不自由なお客さまにも気軽にご利用いただけるよう、多目的トイレ



やエントランスにスロープを設置しました。

なお、「千住支店」「ちはら台支店」とも365日稼働の全自動貸金庫や、視覚障がい者対応ATMを設置しています。

ATMコーナーにおける 携帯電話の利用制限について

携帯電話を利用した振り込み詐欺対策の一環として、平成20年12月に当行本店営業部の店外ATMコーナーなどに、携帯電話の通話を抑止する装置を設置しました。

これは、全国の金融機関では初めての取り組みとなります。

本装置の設置により、ATM操作中にお客さまは携帯電話の通話が制限され、振り込み詐欺被害の防止につながります。

なお、利用している電波は極めて微弱で、人体への影響がほとんどないことが確認されています。

地域貢献活動

ちばぎんカップの開催

当行では、地元千葉県の上級リーグチームの応援とスポーツ振興の一助となることを願い、平成7年よりJリーグのプレシーズンマッチ「ちばぎんカップ」を開催しています。平成21年2月には「2009 Jリーグプレシーズンマッチ『第15回ちばぎんカップ』柏レイソルVSジェフユナイテッド市原・千葉」を開催し、試合当日は柏市内の障がい者の方、約300名をご招待し、白熱した試合を観戦していただきました。

印旛沼クリーンウォーク

平成21年3月に、千葉県の主導する印旛沼再生のためのアダプト制度(印旛沼連携プログラム)の一環として、役職員やOBのボランティア約120名が、印旛沼の水質保全活動(印旛沼クリーンウォーク)に参加しました。

ちばぎんひまわりコンサート

毎回多彩なアーティストを迎え、県内各地で地域のお客さまを無料でご招待している「ちばぎんひまわりコンサート」は、平成21年4月に第39回を迎えました。

毎回お客さまからご好評をいただいております。今後さまざまなジャンルの音楽を通じて、地域の皆さまに音楽とのふれあいの場をお届けしていきます。



平成21年3月期 業績のご報告

損益の状況

預金・貸出金残高が伸び資金利益が増加したことから、銀行の基礎的な利益を示すコア業務純益は前期比58億円増加し、過去最高の907億円となりました。一方で、外国債券や投資信託の減損処理及び売却損失などにより債券関係損失を284億円計上したことから、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は前期比216億円減少し622億円となりました。また、景気悪化に伴う信用コストの増加などにより、経常利益は65億円、当期純利益は113億円と前期比減少しました。

用語解説

コア業務純益

業務純益（一般貸倒引当金繰入前）から債券関係損益を控除したもので、銀行の基礎的な利益を示す指標です。

業務純益（一般貸倒引当金繰入前）

業務純益（一般貸倒引当金繰入前）とは、預金・貸出金など銀行の基本的な業務の成果を示す銀行固有の利益指標です。これは、預金・貸出金などの収支を示す「資金利益」、各種手数料収支を示す「役務取引等利益」、市場業務取引等の損益を示す「特定取引利益」、債券や外国為替の売買損益を示す「その他業務利益」の4つを合計した「業務粗利益」から、臨時経費を除く「経費」を控除したものです。

なお、このコア業務純益および業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、損益計算書の中には記載されません。

預金の状況

預金につきましては、給与振込口座や年金受取口座など「家計のメインバンク」としてご利用いただくことを目指して活動しました結果、個人預金残高は前期比2,261億円増加し、6兆5,940億円となりました。

給与振込・年金受取の口座数は前期比2万件増加し、123万件となりました。

また、お客さまへの提案力を高めるため、銀行本体で、遺言信託及び遺産整理等の相続関連業務を取扱い、平成20年度は190件のお申込みをいただきました。

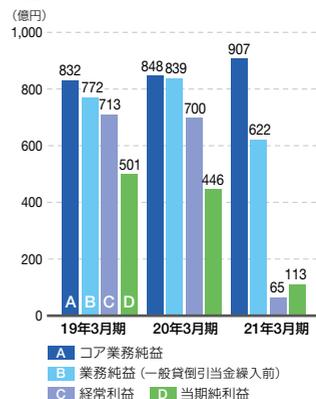
投資型金融商品の状況

株式市況の低迷に伴う基準価額の下落により、投資信託残高は前期比1,409億円減少し、4,135億円となりました。

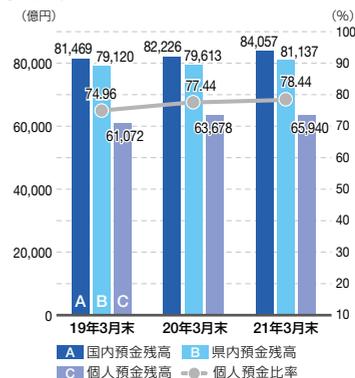
一方で、お客さまへの最適な商品提案を行った結果、個人年金保険の取扱保険料は、前期比82億円増加し、831億円となりました。

また、保険商品の全面解禁に対応し、新たに取扱い可能となった医療保険、がん保険、自動車保険の取扱いを開始しました。

損益の状況



預金の状況



投資型金融商品の状況

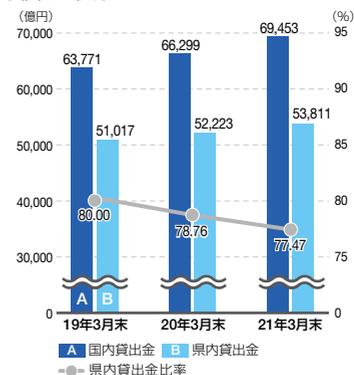


貸出金の状況

地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えしました結果、中小企業向け貸出金や住宅ローンが堅調に推移し、国内貸出金は前期比3,154億円増加し、6兆9,453億円、県内貸出金は前期比1,588億円増加し、5兆3,811億円となりました。

なお、私募債やシンジケートローンなど、新たな金融手法にも積極的に対応し、平成20年度には私募債230件を引き受けました。

貸出金の状況



中小企業向け貸出金・消費者ローンの状況

つくばエクスプレス沿線での開発の進展などを受け、お客さまの住宅資金ニーズに積極的にお応えしました結果、住宅ローン残高は前期比1,435億円増加し2兆2,675億円となりました。

また、財務内容を診断する「ちばぎん中小企業財務診断サービス」の取扱いを開始したほか、年末及び年度末には資金繰りなど各種ご相談にお応えする「中小企業金融休日相談窓口」を設置するなど、中小企業のお客さまへのコンサルティング機能の強化に努めました結果、中小企業向け貸出金残高は前期比594億円増加し3兆238億円となりました。

中小企業向け貸出金・消費者ローンの状況



金融再生法開示債権の状況

平成21年3月末時点の金融再生法開示債権は、前期比343億円減少し1,522億円となりました。また、不良債権比率も前期比0.6ポイント低下し2.1%となっています。

平成20年度には475先のお取引先の経営改善支援に取組み、そのうち78先のお取引先の債務者区分がランクアップしました。

金融再生法開示債権の状況



用語解説

要管理債権

「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」を除く3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権です。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性が高い債権です。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	(平成20年3月31日現在) (平成21年3月31日現在)		科目	(平成20年3月31日現在) (平成21年3月31日現在)	
	平成20年3月末	平成21年3月末		平成20年3月末	平成21年3月末
(資産の部)			(負債の部)		
現金預け金	426,953	330,336	預金	8,376,091	8,501,320
コールローン及び買入手形	10,480	37,000	譲渡性預金	128,003	153,668
債券貸借取引支払保証金	22,081	10,350	コールマネー及び売渡手形	184,973	53,050
買入金銭債権	65,434	56,308	売現先勘定	97,401	198,051
特定取引資産	285,029	392,404	債券貸借取引受入担保金	81,105	67,291
金銭の信託	29,511	28,618	特定取引負債	16,617	18,720
有価証券	2,045,011	1,893,075	借入金	80,646	248,189
貸出金	6,624,687	6,955,624	外国為替	516	436
外国為替	3,693	2,750	社債	41,000	40,000
その他資産	70,819	109,960	その他負債	100,030	93,845
有形固定資産	136,066	96,746	役員賞与引当金	63	40
建物	22,555	23,338	退職給付引当金	18,435	18,982
土地	66,166	65,712	役員退職慰労引当金	1,649	1,374
建設仮勘定	14	397	睡眠預金払戻損失引当金	996	962
その他の有形固定資産	47,330	7,297	ポイント引当金	607	623
無形固定資産	9,583	8,312	特別法上の引当金	215	35
ソフトウェア	6,132	5,954	繰延税金負債	42	57
その他の無形固定資産	3,451	2,357	再評価に係る繰延税金負債	15,323	15,323
繰延税金資産	48,319	89,159	支払承諾	112,049	113,279
支払承諾見返	112,049	113,279	負債の部合計	9,255,770	9,525,255
貸倒引当金	△53,784	△60,999	(純資産の部)		
			資本金	145,069	145,069
			資本剰余金	123,404	123,387
			利益剰余金	283,583	285,233
			自己株式	△1,217	△1,219
			株主資本合計	550,839	552,469
			その他有価証券評価差額金	8,634	△33,279
			繰延ヘッジ損益	300	△1,837
			土地再評価差額金	7,777	7,777
			為替換算調整勘定	1	△0
			評価・換算差額等合計	16,713	△27,340
			少数株主持分	12,616	12,541
			純資産の部合計	580,168	537,671
資産の部合計	9,835,939	10,062,926	負債及び純資産の部合計	9,835,939	10,062,926

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	(平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで)	(平成20年4月 1日から 平成21年3月31日まで)
	平成20年3月期	平成21年3月期
経常収益	268,883	257,019
資金運用収益	186,634	181,312
貸出金利息	144,367	149,619
有価証券利息配当金	38,163	28,699
コールローン利息及び買入手形利息	570	204
債券貸借取引受入利息	169	98
預け金利息	1,900	1,822
その他の受入利息	1,462	868
信託報酬	8	5
役務取引等収益	43,789	39,650
特定取引収益	3,959	5,106
その他業務収益	6,239	5,712
その他経常収益	28,252	25,232
経常費用	189,698	247,620
資金調達費用	45,475	33,896
預金利息	30,216	23,506
譲渡性預金利息	746	661
コールマネー利息及び売渡手形利息	2,504	2,252
売現先利息	493	614
債券貸借取引支払利息	4,247	2,315
借入金利息	1,783	1,686
社債利息	380	655
その他の支払利息	5,102	2,204
役務取引等費用	14,226	14,298
特定取引費用	66	—
その他業務費用	4,412	30,380
営業経費	86,247	87,046
その他経常費用	39,270	81,998
貸倒引当金繰入額	—	14,024
その他の経常費用	39,270	67,973
経常利益	79,184	9,399
特別利益	5,369	5,839
固定資産処分益	—	223
貸倒引当金戻入益	268	—
償却債権取立益	5,100	5,435
金融商品取引責任準備金取崩額	—	180
特別損失	3,093	497
固定資産処分損	830	497
減損損失	13	—
その他の特別損失	2,249	—
税金等調整前当期純利益	81,460	14,741
法人税、住民税及び事業税	31,105	13,681
法人税等調整額	3,728	△ 11,729
法人税等合計		1,951
少数株主利益	645	396
当期純利益	45,980	12,392

【平成21年3月期注記】

- 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 事業用の土地の再評価は、土地の再評価に関する法律施行令第2条第4号に定める方法により算出。土地の再評価に関する法律第10条に規定する差額 23,198百万円
- 貸出金のうち、破綻先債権額は8,543百万円、延滞債権額は88,840百万円、3カ月以上延滞債権額は4,154百万円、貸出条件緩和債権額は50,983百万円、並びにその合計額は152,522百万円
- 銀行法施行規則第17条の5第1項第3号口に規定する連結自己資本比率(国際統一基準) 11.70%
- 有形固定資産の減価償却累計額 91,938百万円
- 1株当たり純資産額 587円51銭
- 担保に供している資産として特定取引資産、有価証券、貸出金合計額 1,114,645百万円
- 1株当たり当期純利益金額 13円86銭

貸借対照表 (単位:百万円)

科目	(平成20年3月31日現在) (平成21年3月31日現在)		科目	(平成20年3月31日現在) (平成21年3月31日現在)	
	平成20年3月末	平成21年3月末		平成20年3月末	平成21年3月末
(資産の部)			(負債の部)		
現金預け金	425,889	329,727	預金	8,401,098	8,529,344
現金	100,393	90,654	当座預金	176,252	178,057
預け金	325,495	239,072	普通預金	4,491,567	4,495,195
コールローン	7,980	30,000	貯蓄預金	272,135	258,420
債券貸借取引支払保証金	22,081	10,350	通知預金	7,011	7,313
買入金銭債権	55,577	46,751	定期預金	3,289,611	3,402,263
特定取引資産	284,647	392,183	その他の預金	164,519	188,093
商品有価証券	16,843	27,175	譲渡性預金	128,003	153,668
商品有価証券派生商品	0	0	コールマネー	184,973	53,050
特定取引有価証券	—	507	売現先勘定	97,401	198,051
特定金融派生商品	7,868	13,440	債券貸借取引受入担保金	81,105	67,291
その他の特定取引資産	259,935	351,058	特定取引負債	16,617	18,720
金銭の信託	26,058	25,367	売付商品債券	10,328	6,262
有価証券	2,044,463	1,893,347	商品有価証券派生商品	27	—
国債	457,726	622,807	特定金融派生商品	6,262	12,457
地方債	221,590	237,368	借入金	80,901	247,479
社債	608,915	463,046	借入金	80,901	247,479
株式	192,577	145,998	外国為替	516	436
その他の証券	563,654	424,126	売渡外国為替	462	396
貸出金	6,656,245	6,991,343	未払外国為替	53	40
割引手形	36,611	26,726	社債	40,000	40,000
手形貸付	239,822	210,624	その他負債	70,191	63,641
証書貸付	5,700,980	6,025,029	未決済為替借	904	289
当座貸越	678,829	728,962	未払法人税等	13,654	973
外国為替	3,693	2,750	未払費用	14,369	14,850
外国他店預け	2,009	1,675	前受収益	3,773	3,088
買入外国為替	1,063	694	先物取引差金勘定	—	3
取立外国為替	621	380	金融派生商品	16,752	18,605
その他資産	62,679	60,522	その他の負債	20,737	25,830
未決済為替貸	1,053	932	役員賞与引当金	40	40
前払費用	130	205	退職給付引当金	18,034	18,550
未収収益	14,378	13,923	役員退職慰労引当金	1,360	1,148
先物取引差入証拠金	181	25	睡眠預金払戻損失引当金	996	962
先物取引差金勘定	37	—	ポイント引当金	330	349
金融派生商品	27,192	19,083	再評価に係る繰延税金負債	15,323	15,323
その他の資産	19,705	26,352	支払承諾	80,539	82,838
有形固定資産	90,270	90,841	負債の部合計	9,217,433	9,490,899
建物	20,892	21,823	(純資産の部)		
土地	63,089	62,695	資本金	145,069	145,069
建設仮勘定	13	265	資本剰余金	122,151	122,134
その他の有形固定資産	6,275	6,057	資本準備金	122,134	122,134
無形固定資産	7,466	8,131	その他資本剰余金	16	—
ソフトウェア	5,936	5,813	利益剰余金	266,817	267,399
その他の無形固定資産	1,530	2,317	利益準備金	50,930	50,930
繰延税金資産	42,576	82,716	その他利益剰余金	215,887	216,468
支払承諾見返	80,539	82,838	別途積立金	169,971	202,971
貸倒引当金	△43,625	△49,982	繰越利益剰余金	45,916	13,497
			自己株式	△1,217	△1,219
			株主資本合計	532,820	533,382
			その他有価証券評価差額金	8,214	△33,331
			繰延ヘッジ損益	300	△1,837
			土地再評価差額金	7,777	7,777
			評価・換算差額等合計	16,291	△27,392
			純資産の部合計	549,111	505,990
資産の部合計	9,766,545	9,996,889	負債及び純資産の部合計	9,766,545	9,996,889

損益計算書 (単位:百万円)

(平成19年4月1日から
平成20年3月31日まで) (平成20年4月1日から
平成21年3月31日まで)

科目	平成20年3月期	平成21年3月期
経常収益	237,606	228,754
資金運用収益	184,905	180,517
貸出金利息	142,935	148,557
有価証券利息配当金	38,150	29,165
コールローン利息	570	160
債券貸借取引受入利息	169	98
預け金利息	1,900	1,821
その他の受入利息	1,179	714
信託報酬	8	5
役員取引等収益	34,607	31,883
受入為替手数料	7,957	7,764
その他の役員収益	26,650	24,119
特定取引収益	3,439	4,799
商品有価証券収益	126	445
特定取引有価証券収益	—	21
特定金融派生商品収益	1,394	1,072
その他の特定取引収益	1,917	3,260
その他業務収益	6,234	5,708
外国為替売却益	3,703	2,916
国債等債券売却益	2,373	1,942
金融派生商品収益	—	845
その他の業務収益	156	2
その他経常収益	8,411	5,840
株式等売却益	2,649	283
金銭の信託運用益	787	516
その他の経常収益	4,974	5,040
経常費用	167,550	222,185
資金調達費用	45,464	33,919
預金利息	30,277	23,604
譲渡性預金利息	746	661
コールマネー利息	2,494	2,252
売現先利息	493	614
債券貸借取引支払利息	4,247	2,315
借入金利息	1,823	1,726
社債利息	336	613
金利スワップ支払利息	4,877	2,046
その他の支払利息	166	85
役員取引等費用	16,164	16,500
支払為替手数料	1,594	1,565
その他の役員費用	14,570	14,934
特定取引費用	66	—
特定取引有価証券費用	66	—
その他業務費用	4,412	30,380
国債等債券売却損	1,647	9,826
国債等債券償還損	—	1,676
国債等債券償却	1,662	18,877
金融派生商品費用	1,103	—
営業経費	80,503	81,706
その他経常費用	20,939	59,678
貸倒引当金繰入額	—	9,976
貸出金償却	14,288	32,087
株式等売却損	64	123
株式等償却	4,465	14,745
金銭の信託運用損	339	654
その他の経常費用	1,780	2,090
経常利益	70,055	6,569
特別利益	10,068	5,388
貸倒引当金戻入益	5,018	—
償却債権取立益	5,050	5,388
特別損失	2,852	408
固定資産処分損	792	408
その他の特別損失	2,059	—
税引前当期純利益	77,272	11,550
法人税、住民税及び事業税	28,511	11,652
法人税等調整額	4,081	△ 11,427
法人税等合計	—	225
当期純利益	44,678	11,324

【平成21年3月期注記】

- 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 事業用の土地の再評価は、土地の再評価に関する法律施行令第2条第4号に定める方法により算出。土地の再評価に関する法律第10条に規定する差額 23,198百万円
- 貸出金のうち、破綻先債権額は8,860百万円、延滞債権額は87,005百万円、3カ月以上延滞債権額は4,154百万円、貸出条件緩和債権額は50,912百万円、並びにその合計額は150,933百万円
- 銀行法施行規則第19条の2第1項第3号ロ(10)に規定する単体自己資本比率(国際統一基準) 11.12%
- 有形固定資産の減価償却累計額 87,877百万円
- 1株当たり純資産額 566円10銭
- 担保に供している資産として特定取引資産、有価証券、貸出金合計額 1,113,887百万円
- 1株当たり当期純利益金額 12円66銭

株式の所有者別状況

平成21年3月31日現在

	株主数 (人)	所有株式数 (単元)	割合 (%)	
政府及び地公体	2	9	0.00	
金融機関	115	451,627	50.72	
証券会社	32	8,090	0.91	
その他の法人	1,450	130,594	14.67	
外国法人等	個人以外	448	176,411	19.82
	個人	0	0	0.00
個人その他	26,029	123,556	13.88	
計	28,076	890,287	100.00	

(注) 1. 1単元の株式数は、1,000株です。なお、上記のほか、単元未満株式は5,234,087株となっております。

2. 自己株式1,704,663株は「個人その他」に1,704単元、単元未満株式に663株含まれております。なお、自己株式1,704,663株は株主名簿上の株式数であり、期末日現在の実質的な所有株式数は1,703,663株です。

3. 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が3単元含まれております。

事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会

毎年6月

基準日

定時株主総会の議決権：毎年3月31日

期末配当：毎年3月31日

中間配当：毎年9月30日

公告方法

電子公告

(当行ホームページ <http://www.chibabank.co.jp/>)

ただし、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

大株主上位10社

平成21年3月31日現在

	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	70,928	7.92
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4G)	50,325	5.61
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	49,987	5.58
株式会社三菱東京UFJ銀行	44,158	4.93
日本興亜損害保険株式会社	29,905	3.33
日本生命保険相互会社	29,177	3.25
第一生命保険相互会社	25,678	2.86
住友生命保険相互会社	17,842	1.99
明治安田生命保険相互会社	15,579	1.73
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	13,331	1.48

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てております。

2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は小数点第3位以下を切り捨てております。

株主優待制度

- 対象株主
毎年3月31日現在、1,000株(1単元)以上保有の株主
- 株主優待制度の内容
千葉県の特産品等を集めましたオリジナルカタログ(毎年6月送付予定)から、保有株数に応じて、お好みの商品をお選びいただけます。

保有株数	1,000株以上 10,000株未満	10,000株以上
優待商品	千葉県の特産品等 3,000円相当	千葉県の特産品等 6,000円相当

株式事務取扱場所

- 株主名簿管理人・事務取扱場所

〒103-8202

東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号

日本証券代行株式会社 本店

お問い合わせ先 ☎0120-707-843

株式会社 千葉銀行

〒260-8720 千葉市中央区千葉港1-2

TEL.043-245-1111 (代表)

<http://www.chibabank.co.jp/>

平成21年6月発行



この印刷物は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認定されました。



大豆油インキで印刷しています



ちばぎんはチーム・マイナス6%に参加しています。

みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%